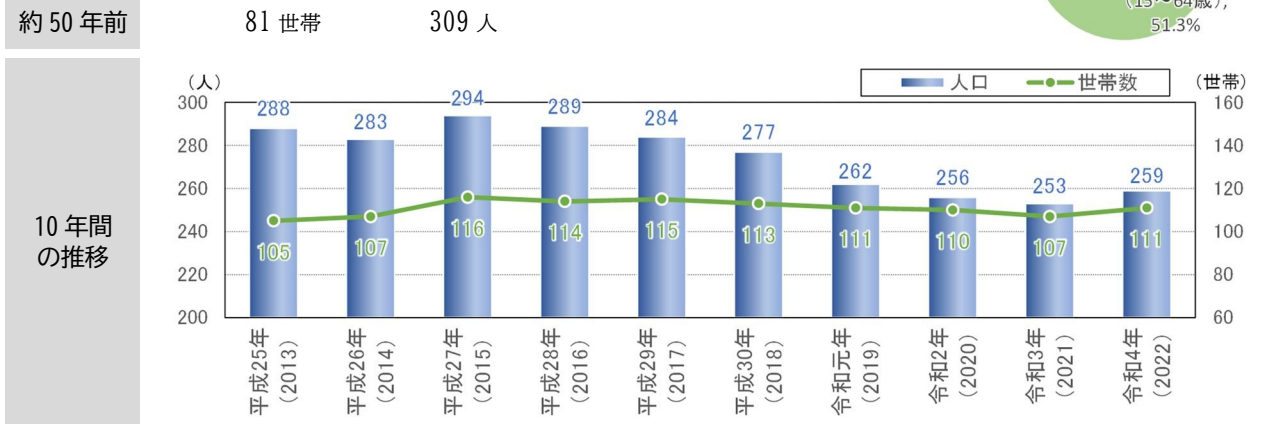
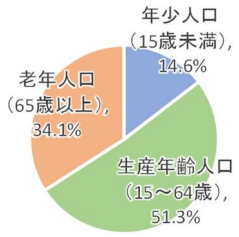


	世帯数	人口	年齢別人口	
現在	111 世帯	259 人	15 歳未満 (年少人口)	38 人
			15~64 歳 (生産年齢人口)	134 人
			65 歳以上 (老年人口)	89 人
約 50 年前	81 世帯	309 人		



歴史等

古代律令制では播磨国神前郡高岡里又は的部里の北端、中世は高岡荘に含まれたと考えられます。天正年間(1573~1592)、高橋城が落城した後、その家臣のうち松村 職・津田進之丞の2人が残って山麓を開発したのが当村の始まりと伝わります。また、鎮守は溝口村(姫路市香寺町) 広田神社の分霊を勧請したといい、溝口村の新田から独立したとも伝わります。

近世は豊臣氏の領地となった後、慶長5年(1600)からは姫路藩領となり、大庄屋組は山崎組に属しました。元文2年(1737)の高橋村明細帳によると、家数は12軒・人数は84人でした。『兵庫県播磨国地種便覧』によると、明治14年(1881)の戸数は44戸・人口211人でした。明治22年(1889)に福崎村の大字となりました。

第二次世界大戦中の昭和16年(1941)には、大阪陸軍航空補給廠 姫路出張所が置かれ、「高橋の弾薬庫」と呼ばれました。戦後の昭和21年(1946)、占領軍の手による高橋の弾薬庫保管品の処理作業中に爆発が起り、ポール中尉ら米兵3名と作業中の地元住民7名が亡くなるという悲惨な事故が起りました。昭和30年(1955)頃から始まる高度経済成長のなかで工場誘致が進められ、高橋には福崎工業団地が整備されてきました。



廣田神社



男拝み絵図・赤罈禁断 (廣田神社)



秋祭り・屋台



法成就講



堀上げ地蔵



ポール中尉慰霊碑

※現在の人口・世帯数・年齢別人口は令和4年5月末時点、10年間の人口・世帯数の推移は各年5月末時点、約50年前の人口・世帯数は昭和52年6月末時点であり、いずれも住民基本台帳による値です。なお、年齢別人口のみ外国人を含む値になっています。

歴史文化遺産一覧

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり					
				①	②	③	④	⑤	⑥
建造物 石造物	1 堀上げ地蔵	室町時代か	室町時代はじめ頃には造立されていたものと思われる。地蔵菩薩の石仏。高橋村の田んぼの畔がすぐに壊れてしまうため、なおしていたところ、畔の下から地蔵が出てきて、村で地蔵を祀ると、以来畔が壊れることはなかったという。				●		
	2 六地蔵(高橋第二墓地)	不明	六地蔵の石仏。うち1基の正面には「念仏講中」の文字と像容、世話人の名が記されている。				●		
	3 名号塔(高橋第二墓地)	天保15年(1844)	名号塔。正面には「南無阿弥陀仏」、右には造立年月、左には世話人の名が記されている。				●		
	4 三界万霊塔(高橋墓地)	文政11年(1828)	三界万霊塔。正面には「三界万霊」、右に造立年月等、左に世話人の名が記されている。				●		
	5 石鳥居(高森神社)	大正3年(1914)	石鳥居。右柱正面には「奉」の文字と造立年、左柱正面には「納」の文字と造立月日、各背面に願主が記されている。				●		
	6 石鳥居(廣田神社)	昭和18年(1943)	石鳥居。右柱正面には「奉」、左柱正面には「納」、背面には造立年月が記されている。				●		
	7 石灯籠(廣田神社)	明和7年(1770)	左右一対の石灯籠。左右とも正面には「明和七寅十一月氏講中」と記されている。				●		
	8 石灯籠(佐本神社)	明治26年(1893)	石灯籠。正面には「献灯」、右に造立年月が記されている。				●		
	9 石灯籠(高森神社)	明治41年(1908)	左右一対の石灯籠。左右ともに正面に「献灯」、右に造立年月が記され、左灯籠の左には願主が記されている。				●		
	10 石灯籠(高森神社)	明治43年(1910)	左右一対の石灯籠。左右ともに正面に「献灯」、右灯籠の右に造立年月、左に願主、左灯籠の左に「家内安全」と記されている。				●		
	11 石灯籠(高橋線路横)	不明	石灯籠。正面に「常夜灯」、左に世話人が記されている。高橋地区内のJR播但線沿いに位置する。このあたりに旧道が通っていた跡が残っており、当時の道を知ることができる石造物である。				●		

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
建造物 石造物	12	手水石（廣田神社）	天保10年（1839）	手水石。正面に「天保十年 盃 亥九月日」、右に「氏子中」、左に世話人が記されている。				●		
	13	手水石（高森神社）	大正年間（1912～1926）	手水石。正面に「奉獻 盃」、右に造立年月、左に施主が記されているが、下部は判読できない。				●		
	14	狛犬（廣田神社）	明治37年（1904）	石造狛犬。				●		
	15	狛狐（高森神社）	明治44年（1911）	神使（狐）。				●		
	16	ポール中尉等殉職慰霊碑	昭和23年（1948）	ポール中尉等殉職慰霊碑。終戦翌年の昭和21年（1946）、弾薬庫保管品類を処理中に爆発事故が起こり、アメリカ兵や日本人の作業員が亡くなった。指揮官ポール中尉ら殉職者の平和慰霊碑が西治地内に昭和23年（1948）に建立された。高橋ふれあい広場入口付近に移設されている。						●
	17	石室（高橋墓地）	不明	石室。				●		
	18	石祠（佐本神社）	不明	『佐本神社再建記録』（明治26年）に、明治26年10月より石社殿建築に取りかかり、石灯笼一對を建立したことが記されている。石祠。				●		
	19	石祠残欠（佐本神社）	不明	石祠の残欠。正面に「水上」と記されている。				●		
	20	藤の森碑	明治36年（1903）	力士墓碑。正面には「藤の森碑」と記されている。				●		
21	いぼとり地蔵尊	享保16年（1731）	享保16年（1731）12月、薬師庵寺の境内地に本尊として地蔵菩薩を安置。そのため、北向きとなっている。享保10年に高橋村で疫病がはやり、子ども10名が亡くなり、治良右エ門の父、心浄浄蓮大徳が子どもの供養のために安置したものである。				●			
美術工芸品 絵画	22	俳諧額（廣田神社）	天保13年（1842）	画家は「林鐘」とあり、奉納者は不明。稽古一千集。32.5×179.5 cm。	●			●		
	23	武者絵図（廣田神社）	明治38年（1905）	奉納者は「施主岩見ちやう子」とある。押絵。43×56 cm。	●			●		
	24	男拝み絵図（廣田神社）	明治41年（1908）	奉納者は「戌ノ年ノ男 23 才」とある。神前に赤鱒を供えて禁食。35.5×48.5 cm。	●			●		

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
美術工芸品 絵画	25	相撲番付額(廣田神社)	明治33年(1900)	奉納者は不明。周旋人16名等の名がある。149×111cm。	●			●		
	26	歌舞伎題材図(廣田神社)	明治37年(1904)	奉納者は「当所氏子 願主水谷□」とある。押絵。44×60cm。	●			●		
	27	吉良邸赤穂義士 清水一角ヲ討取図(廣田神社)	大正9年(1920)	奉納者は「当村青年会 20名」とある。国勢調査記念。103.5×151cm。	●			●		
	28	中国武將題材図(廣田神社)	不明	奉納者は「氏子中」とある。劉備・関羽・張飛が破損している。90.5cm×194.5cm。	●			●		
	29	相撲図(廣田神社)	不明	奉納者は「高瀬代 子歳之男」とある。72cm×105cm。	●			●		
	30	十二支図(廣田神社)	不明	奉納者は不明。1面。41.5cm×192.5cm。絵は見えなくなっている。	●			●		
	31	鯰図(廣田神社)	不明	奉納年月日は「正月元旦」とあるが年月は不明。奉納者は「14歳 酉年男」とある。17×24cmの小絵馬。	●			●		
	32	赤鱗図(廣田神社)	不明	奉納者は「56才卯年女 神崎郡香寺町 恒屋 橋本百合子」とある。20×29cm。	●			●		
	33	赤鱗図(廣田神社)	不明	奉納者は「辰年男」とある。14×21.5cm。	●			●		
	34	赤鱗図(廣田神社)	不明	奉納者は「寅年 18才女」とある。16.5×21.5cm。	●			●		
	35	赤鱗図(廣田神社)	大正9年(1920)	奉納者は「姫路市 午年男」とある。願開。18.5×19.5cm。	●			●		
	36	赤鱗図(廣田神社)	不明	奉納者は不明。12cm×14.5cmの小絵馬。	●			●		
	37	赤鱗図(廣田神社)	不明	奉納者は「27才 年也男」とある。13.5×22cm。	●			●		
	38	赤鱗図(廣田神社)	不明	奉納者は「年男 38才」とある。願開。13.5cm×16.5cm。	●			●		
	39	赤鱗図(廣田神社)	不明	奉納者は「戌年ノ女」とある。17.5×21cmの小絵馬。	●			●		
	40	赤鱗図(廣田神社)	不明	奉納者は「当所氏子 卯年男」とある。12cm×15.5cmの小絵馬。	●			●		
	41	赤鱗図(廣田神社)	不明	奉納者は「申年男」とある。11.5×15.5cmの小絵馬。	●			●		
	42	赤鱗図(廣田神社)	不明	奉納者は「うしのとし男」とある。12cm×15.5cmの小絵馬。	●			●		
	43	赤鱗図(廣田神社)	不明	奉納者は「当所 34歳 歳ノ男」とある。願開。17.5×25cm。	●			●		

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり							
				①	②	③	④	⑤	⑥		
美術工芸品	絵画	44	羽子板絵馬（廣田神社）	不明	奉納者は不明。計 5 枚。傷みが激しい。	●			●		
		45	破魔弓絵馬（廣田神社）	不明	奉納者は不明。計 6 枚あったとされるが、2 枚のみ確認できる。	●			●		
	書跡・典籍・古文書・歴史資料	46	高橋区有文書	—	1,021 件（点数不明）。		●				
有形の民俗文化財	祭具	47	屋台（高橋区）	—	神輿屋根型屋台。伊勢唄を担ぎ手が歌い、乗子がはやすという、独特の屋台練りを行う。屋台は、福崎町町制 50 周年を記念して新調された。				●	●	
無形の民俗文化財	年中行事・民俗芸能	48	秋祭り（福崎）	—	福崎地区・高岡地区の屋台 13 台（布団屋根型 6 台、神輿屋根型 7 台）が二之宮神社に集まる。本宮では、宮元である山崎屋台が 12 台の屋台を JR 福崎駅前へ迎えに行き、福崎駅前で屋台が練り上げられた後、二之宮神社に宮入りする。拝殿で神事が行われ、五穀豊穡が祈願された後、宮出しが行われる。山崎の木方による合図で一斉に屋台が動きだし、練り合わせを行う「13 台サラバ練り」は見どころである。			●	●	●	
		49	初午	—	高森神社で行われる。現在は子ども会が主となって実施しており、男女で尻相撲を行っている。				●		
		50	斎灯	—	2 月 3 日に廣田神社・高森神社で行われる。神社当番が長さ 120 cm、太さ 15 cm の松の木を六段くらい積んで燃やしており、餅を焼いて食べると夏負けしないとされている。				●		
		51	湯立て（夏祭り）	—	7 月 25 日に廣田神社で山崎の宮司により湯立てが行われる。				●		
		52	田祭り	—	7 月 12 日に高森神社で行われる。日が落ちた 20 時頃から村人が集まり、神事が始まり、五穀豊穡や村内安全を唱える。戦前には田尻村や北野村からも簀や笠をつけた村人が高橋村まで来て、雨乞い踊りを行っていたとも伝えられている。現在は神社当番が主になって神事を行っている。			●	●		

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり												
				①	②	③	④	⑤	⑥							
無形の民俗文化財	年中行事・民俗芸能	53	水神祭り	—	7月に佐本八大龍王神社の祠の前で行われる。川裾に夏野菜を三宝に祭り、五穀豊穡や村内安全を祈るものである。明治26年(1893)の『佐本神社再建記録』には、同年7月に行われた「雨請祈禱」の様子が記されている。現在は神社当番が主になって神事を行っている。											
		54	七夕祭	—	子ども会・老人会により、公民館で行われている。											
		55	法成就講	—	一般的に「とんど」として知られるが、高橋区のもは「法成就講」といわれている。講の目的は地区の祭祀・親睦等を含めて講員の無病息災・五穀豊穡を祈るもの。開講の年代は不明であるが、連名帳の記録では文化2年(1805)が最も古く、それ以前と考えられている。 【町指定無形民俗文化財】											
遺跡	古墳・その他の墓	56	佐本古墳	古墳時代	全壊。横穴式石室(長さ6約6m)をもつ古墳時代の円墳であったと思われる。かつては石室の一部も残存していたが現存しない。											
		57	高橋1号墳	古墳時代中期	古墳時代中期の円墳。JR播但線と国道312号に挟まれた台地上に位置する高橋古墳群のひとつ。											
		58	高橋2号墳	古墳時代中期	古墳時代中期の円墳。JR播但線と国道312号に挟まれた台地上に位置する高橋古墳群のひとつ。											
		59	高橋3号墳	古墳時代中期	古墳時代中期の円墳(直径約9m)。JR播但線と国道312号に挟まれた台地上に位置する高橋古墳群のひとつ。竪穴式石室。箱式石棺の内側に朱が塗られていたとの記録が残る。鉄剣、人骨が出土したとされるが、現在は確認できない。											
		60	高橋4号墳	古墳時代中期	古墳時代中期の円墳。JR播但線と国道312号に挟まれた台地上に位置する高橋古墳群のひとつ。竪穴式石室、箱式石棺。昭和32年(1957)、長さ51cmの鉄剣が出土(神崎郡歴史民俗資料館蔵)。人骨も出土したとされるが、現在は確認できない。											

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

高 橋

分類	名称		年代	概要	歴史文化ものがたり						
					①	②	③	④	⑤	⑥	
遺跡	古墳・その他の墓	61	高橋5号墳	古墳時代中期	古墳時代中期の円墳。JR播但線と国道312号に挟まれた台地上に位置する高橋古墳群のひとつ。		●				
		62	高橋6号墳	古墳時代中期	古墳時代中期の円墳。JR播但線と国道312号に挟まれた台地上に位置する高橋古墳群のひとつ。		●				
	散布地・集落跡・生産遺跡等	63	檜谷遺跡	古墳時代	焼けた土や炭を含む土坑とピット(小さな穴)が1基ずつ発見されている。土坑からは歪みのある須恵器の坏が見つかっており、祭祀に用いられたと考えられる。こ		●				
	城館跡・神社跡	64	高橋城跡	中世	高橋城の築城年代は不明であるが、『神崎郡誌』によれば小川幸三藤原秀高とされている。城跡は東西20間、南北15間で、詳細は不明であるが、天正13年(1585)に落城したとされる。						●
	街道・古道等	65	旧神西郡の南北道	—	市川右岸を通る。江戸時代には、本道である生野街道ではなく神西郡を通る道筋も頻りに利用され、役人等の通行時の休泊や諸費用の継立で難渋したため、本道を通るよう嘆願書も提出されている。						●
	戦跡	66	旧陸軍弾薬庫引込線跡地	昭和初期	昭和16年(1941)に大阪陸軍航空補給廠姫路出張所(通称:高橋の弾薬庫)が高橋に進出し、昭和18年(1943)初頭には播但線溝口駅からの鉄道の引込線が開通したとされる。線路は現在の町道高橋西谷線に沿って設けられていた。						●
67		弾薬庫表門跡	昭和初期	昭和16年(1941)に大阪陸軍航空補給廠姫路出張所、通称「高橋の弾薬庫」といわれる施設が高橋地区に置かれた。同施設の表門であり、片側の門柱が残る。						●	
名勝地	河川・滝	68	市川	—	下流域は川幅が広く、砂州や後背水域など多様な環境が形成され、河川自然植生の多様性が高く、魚類の在来種も多いことから、兵庫県レッドリスト(B)に掲載されている。また、月見橋下流右岸と神崎橋下流左岸は、ミクリ・ナガエミクリが生育する川辺植物群落として兵庫県レッドリスト(C)に掲載されている。		●				

※歴史文化ものがたり: ①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
その他	信仰の場	69	廣田神社	—				●		
		70	高森神社	—				●		

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

- ・平成12年（2000）1月に地域史誌『高橋部落史』を編さんしました。
- ・高橋太鼓保存会を組織し、区に伝わる民俗芸能「伊勢音頭」と太鼓の保存・継承の推進、並びに後継者の育成に取り組んでいます。
- ・宮当番が中心に、神社の夏祭りの際の清掃活動を実施しています。
- ・とんど協力委員（保存会）が中心となって、法成就講の掛軸を管理し、料理をふるまっています。
- ・初午や七夕祭などの行事を通して、世代間の交流等を図っています。



『高橋部落史』の編さん



初午



七夕祭